

第2回在宅緩和ケア推進検討委員会（令和元年9月3日）における主な意見

1 在宅医療及び在宅緩和ケアの提供体制に関する実態調査・分析の進め方について

（省略）

2 緩和ケアが必要な患者の在宅療養事例について

（在宅療養への移行について）

- 病院での入院から在宅療養に移行する際に費用負担が大きくなるケースがある。在宅療養への移行を難しくしている要因の一つかもしれない。
- やはり患者さんの不安が大きいと在宅療養への移行がうまくいかないと感じている。身体的な症状のマネジメントが良好だとしても、在宅療養に移行できない、或いはそれが継続できないというのは、かなり心理面の影響が大きいものとする。

（連携について）

- 入院している患者さんの在宅療養の希望を叶えるためには、病院と地域の診療所や訪問看護ステーションが早期から連携することが大事と感じている。より早くから連携し、患者さんに対応できると良い。
- 早い段階からの連携を実現するには、病院と地域の医療機関等が話し合い、顔の見える関係で、お互いに協力して取り組んでいかないといけない。